

新民協第309号
令和2年1月17日

各区地域（地域総務）課長 様

市民生活部市民協働課長

区自治協議会提案事業の事業評価について（依頼）

区自治協議会提案事業については、「自治協は、事業の企画段階、実施段階、評価段階、改善段階の各過程において、区役所関係課と密接に連携しながら主体的に取り組むこととする。」としており、事業評価（評価段階）についても、区自治協議会が自ら事業評価を行う必要があります。

つきましては、下記のとおり、ご対応をお願いいたします。

1 目的

区自治協議会が提案した事業について、地域課題等の抽出・選定から企画提案、実施までを自ら評価し、改善点などを来年度以降の区自治協議会提案事業に生かす。

2 事業評価の方法等

① 事業評価の方法

様式「区自治協議会提案事業 事業評価書」により行ってください。

② 事業評価の期限

令和2年3月31日（火）

3 公表について

各区ホームページで公開する。

4 提出

作成した事業評価書について、令和2年3月31日（火）までに市民協働課へ提出をお願いします。

【担当】市民協働課 内山（内線31104）

区自治協議会提案事業 事業評価書

〇〇区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	【事業費予算 千円】
事業目的・概要	
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	
事業の評価 <small>(地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など)</small>	<p>【評価】</p> <p>【課題】</p>
備考	

(参考)

平成31年3月31日

平成30年度 区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会 (第1部会)

区分	内容
テーマ・事業名	課題解決きらめきサポートプロジェクト (1,700千円)
事業目的・概要	「きらめく秋葉区」に向けたまちづくりのために、地域コミュニティの活性化や福祉、防災、文化振興など、様々な地域課題の解決につながる取り組みを協働で実施し、「きらめく秋葉区」に向けた、まちづくりを目指す。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	(1)菩提寺山フェスティバル【秋葉里山ガイドの会 & こどもくらしJAM】 菩提寺山などの散策拠点になっている里山ビジターセンターをより多様な世代の人に周知・利用してもらうために企画。多世代の実行委員会を構成し、多様なプログラムを実施した。結果、開設以来最多の集客数に。(9月16日) (2)にいつ夏祭りを体感しよう【新津第一中学校】 「にいつ夏祭り」の魅力を体感することで、祭りの担い手不足解消につなげようと、「新津松坂流し」の練習会、お囃子の公開練習、祭りへの参加を企画、実施。(7月27日、8月17日) (3)「新津の魅力かるた」で脳トレ&ふるさと教育【新津第一小学校】 新津第一小学校のオリジナルかるたを使い、高齢者には脳トレ、児童・学生には郷土愛を育むふるさと教育ができるよう、PRとかるた交流会(11月3日)を実施。今後も区内で継続して実施できるよう、かるたレンタルの仕組みを整えた。 (4)町屋ギャラリー薩摩屋を拠点とした地域活性化イベント【小須戸コミュニティ協議会】 小須戸地域の独自性豊かな冬期間のイベントとして実施。3年目となる今回は地域住民の「しまい込んでいるひな人形」の提供を受け、「町屋ギャラリー薩摩屋」をはじめ約30か所に展示。地域内外から多くの参加があり、地域のおもてなしの意識も生まれてきた。(1月～3月末) (5)「鉄道の街」のさらなる活性化をはかる事業【鉄道OBを中心とする会】 鉄道と地域の関係をひもとき、「鉄道の街」のにぎわいの記憶を後世に伝えるために、鉄道OBが往時の思い出を語り合い、その様子を収めた映像を制作。YouTubeと新津鉄道資料館で公開。 (6) 秋葉山分岐点案内図設置【新津中央コミュニティ協議会】 秋葉山を訪れる全ての方々に安心・安全を提供し、秋葉山の全容を知る手がかりになるように、案内図(1カ所)、矢印看板(6カ所)を設置。
事業の評価 (地域課題の抽出方法や企画立案の評価事業の公益性・実効性・効率性の評価など)	○地域のイベントに自治協議会が関することで、イベントのPRを幅広く行うことができるため、非常に効果的な事業である。 ○自治協議会からの予算がなくなっても事業が継続していくか、という点に課題がある。 ○もっと広くこの事業をPRしていくことで、主体的に行動する団体を発掘・後押しするような事業に育てていきたい。 ○今年度も、第1部会だけで実施したが、他の部会、または自治協全体の事業として実施することで、何倍もの動きや効果が生まれると考える。 ○自治協議会単独で事業を実施するより、区内の活動を刺激することができることも、人材発掘、自治協のPRにもつながり、効果が大きい。 ○協働で実施することにより、自治協議会委員、応募団体双方に様々な「気づき」が生まれ、それぞれの今後の活動に生かせると思う。 ○この事業はいずれも、自治協議会、応募団体以外の他団体との交流・連携を生みだした。また、来年度のエントリーにもつながった。この動きがそれぞれ今後も継続することを願う。
備考	

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第2部会)

区 分	内 容
テーマ・事業名	歌って、笑って、楽しいひとときを 外出促進事業 【事業費予算 1,100千円】
事業目的・概要	自力で外出できる高齢者だけでなく、車椅子での生活や交通手段がないなどの理由で外出の機会が少ない高齢者や障がいを持つ人、またはその家族などを対象に、出かけるきっかけを作り、生きがいがづくりにつなげることで、地域で元気に楽しく人生を送ってもらうため、合唱で大きな声を出し、体を動かすことで健康を促進し、継続した実践につなげてもらう。 また、秋葉区全体での公共交通について協議する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	「歌って、笑って、楽しいひとときを 外出促進事業」 日時 平成30年10月29日(月) 午後1時30分～午後3時30分 会場 秋葉区文化会館 参加者数 257名(男性40名、女性217名) 内容 第1部 講演 「キラキラ輝く人生のために～心理学からのヒント～」 講師 新潟青陵大学大学院 碓井真史 教授 第2部 軽体操 自宅でもできるタオルを使った体操 講師 かえつメディカルフィットネス ウオーム 第3部 合唱 ピアノ演奏 阿部恵子氏 琵琶湖周航の歌、故郷 ほか全8曲
事業の評価 <small>地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</small>	【企画(テーマ・内容等)について】 ○区の課題の一つでもある高齢化率の高まりに伴い、高齢者の外出する機会が減少している。広報活動を通して「外出促進」を働きかけ、外出の機会を増やすことを目的とした。 ○事業の対象者を高齢者に限定しなかったことと、講師のおかげで比較的若い世代からの参加もあった。高齢になってから、このような企画に参加するより、若い時から参加することにより、高齢になってからも参加しやすく、外出促進につながると思う。 ○アンケートによる満足度の評価は、第1部(講演)82%、第2部(軽体操)86%、第3部(合唱)80%と高評価を得ることができた。 ○「両親には何かの目的を持ってキラキラと生きてもらいたい」という講演会の感想をいただいて、笑顔でいきるための一助になったような気がする。 ○知名度のある碓井教授の講演に満足し、同じ姿勢で疲れた身体を動かすスリッパ、昔懐かしい歌を声を出して歌えたことに来場者は満足した様子だった。 ○アンケート結果を見ると賛否両論あったが、笑顔で帰られる方々を見送り、良い事業であったと思う。 ○参加者から、「その後もタオル体操を実践しています。」という声を聞いた。日常において気軽に取り入れることができる、適切な企画だったと思う。 ○スタッフは大人数ではなかったが、色々な場面で計画通りに準備・運営ができた。

	<p>【広報について】</p> <p>○高齢者のみを対象とせず「外出促進事業」として周知したことで、見慣れない顔の方も多く、また60歳以下の参加もあった。</p> <p>○チラシ全戸配布と区だよりによるイベント周知は効果的だった。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>○第2部会の提案事業は定着してきている。それに伴い、自治協議会は少しずつ認識してもらえていると感じる。参加者が年々増えていることは、その成果を者がっている。また、「みんなで歌う」をプログラムの最後にもっていているので、参加者が笑顔で帰宅される。歌には認知症予防効果があると言われる。継続して追及していきたい。</p> <p>○講演は、地方にはなかなか聞けない人の話が聞けたら良いと思う。</p> <p>○心理学やコミュニケーション能力など、前向きになれる話をしていただき、とかく暗くなりがちな高齢社会を明るくしていきたい。</p> <p>○筋力は、例年のように実技を伴うものが良い。</p> <p>○講演も満足度は高かったが、軽体操や合唱など能動的なものの方が楽しんでいただけた。次回の企画に生かしたい。</p> <p>○各コーナーの時間が短いような気がする。3部構成を2部構成にし、ゆったりと講演を聞いたり、歌を歌いたい。</p> <p>○参加すると、講演、運動、歌ともに好評で、満足して帰る人が多いが、参加しない・出来ない人への働きかけも大事である。</p> <p>○身体的事由による外出困難者への外出促進の援助が課題である。</p> <p>○かなり続けての催し物。1～2年休んでもいいのではないか。</p> <p>○福祉は高齢者だけが対象となるものではないため、今後このような事業を行うのであれば、多世代を対象としたものを考える必要もあるのではないか。</p> <p>○年1回、大々的に大きな会場でイベント的に事業を開催するよりも、「自治協」の活動であることを知ってもらうために、同じ内容でよいので、小単位で地域で出ていくことが良いのではないか。</p> <p>○高齢化は、どの地域にも共通している地域課題である。身近にも問題がたくさん出てきている。部会の中で情報を交換していきたい。</p> <p>○来年度は地域と福祉施設の関わりについて検討していくが、地域の皆さんが、秋葉区は良いところだと思ってくれるよう、第2部会での話し合いを大切にしたい。</p>
備考	<p>○区内の公共交通の使いやすさ向上を図るため、区バス、新潟交通グループ路線バス及びJRの時刻表などの複数の情報を掲載した「秋葉区公共交通ガイド」を作成した。</p> <p>○公益性、平等性、実行性から考えると「生活交通」も重要な議題ではあるが、力不足を感じる。</p>

平成30年度 区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(第3部会)

区 分	内 容
テーマ・事業名	あきは子ども大学 【事業費予算 1,250 千円】
事業目的・概要	次世代を担う子どもたちに、秋葉区の特徴や伝統を継続的に体験してもらい、広く周知することで、地域への愛着や興味関心をさらに高めるとともに、未来につながる主体的な学びの機会となるよう実施する。
事業の実施実績 (実施回数, 参加者数など)	<p>対象児童 秋葉区内の小学3・4年生</p> <p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1回 オリエンテーション、Akihaマウンテンプレーパーク体験 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 5月12日(土) 10:00～15:00 ・会 場 新津地区市民会館、Akihaマウンテンプレーパーク ・参加児童 22名 ●第2回 満願寺閘門・小阿賀樋門見学、小阿賀野川舟下り体験 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 6月16日(土) 13:00～17:00 ・会 場 阿賀野川河川事務所 満願寺出張所 ・参加児童 23名 ●第3回 新潟薬科大学(東島キャンパス)見学・交流体験、学食試食体験 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 8月23日(木) 10:00～13:30 ・会 場 新潟薬科大学 東島キャンパス ・参加児童 22名 参加学生 3名 ●第4回 まが玉づくり体験、古津八幡山遺跡探索、修了式 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 9月15日(土) 10:00～14:30 ・会 場 弥生の丘展示館、古津八幡山 ・参加児童 21名 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●第1回 オリエンテーション、金津油田探索体験 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 10月6日(土) 13:00～16:00 ・会 場 新津地区市民会館、石油の世界館 ・参加児童 16名 ●第2回 秋葉丘陵(菩提寺山)踏破体験 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 11月10日(土) 9:30～15:00 ・会 場 里山ビジターセンター、菩提寺山 ・参加児童 18名 ●第3回 小須戸町屋巡り、つるし雛(小須戸縞おりがみ)づくり体験 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 12月1日(木) 13:00～16:00 ・会 場 町屋ギャラリー 薩摩屋 ・参加児童 18名 ●第4回 こけ玉づくり体験、アザレア見学、吉田千秋生家見学、修了式 <ul style="list-style-type: none"> ・日 時 2月16日(土) 10:00～15:00 ・会 場 新津フラワーランド、アザレアハウス、吉田千秋生家 ・参加児童 16名

区 分	内 容
<p data-bbox="236 613 368 640">事業の評価</p> <p data-bbox="150 674 456 734">地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など</p>	<p data-bbox="469 237 544 264">【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="469 266 1437 327">○地域の持っている資源を活用し、子どもたちの遊び心と好奇心を通して道の出会いをつくり、知的な体験を学びとっている様子が感じられた。 <li data-bbox="469 329 1437 389">○自分の生まれ育った地域の産業や文化を体験することにより、ふるさとの良さを知ることができ、自己肯定感につながる。 <li data-bbox="469 392 1437 452">○「秋葉区の宝」について、それぞれ専門の方から協力を得てしっかりと学ぶことができて良かった。 <li data-bbox="469 454 1437 515">○普段一緒になることのない他校の児童と交流ができるので、「あきは子ども大学」は良い企画である。 <li data-bbox="469 517 1437 577">○委員である自分自身にとっても、小須戸の町屋巡り、こけ玉づくり、吉田千秋生家見学など、これまでにできなかった体験をすることができ、興味深かった。 <p data-bbox="469 589 544 616">【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="469 618 1437 678">○29年度に引き続き、区内の小学校でも参加状況に偏りがあるため、各学校へのアピールに努めるとともに、原因を精査して改善を図りたい。 <li data-bbox="469 680 1437 741">○環境汚染が問題となっている現在、生活用水の取込みから下水処理場の現況を体験することを検討してはどうか。 <li data-bbox="469 743 1437 804">○「あきは子ども大学」の趣旨を逸脱しない範囲で、内容によっては親子で学ぶ機会も設けてみてはどうか。 <li data-bbox="469 806 1437 866">○自治協議会の委員は自主的に動き子どものフォローをしていたが、委員の役割をより明確化したほうが良い。 <li data-bbox="469 869 1437 929">○各回開催後の部会の際に、次回以降のあきは子ども大学の改善のため、必ずふりかえりをを行ったほうが良い。 <li data-bbox="469 931 1437 992">○初回に参加児童同士が交流を行う場をつくることで、以後スムーズに一緒になって学ぶことができるのではないか。 <li data-bbox="469 994 1437 1055">○前もって子どもたちに背景や概要等を説明しておくことで、より深く学ぶことができるのではないか。 <li data-bbox="469 1057 1437 1117">○あきは子ども大学の目的である地域への愛着や興味関心の増進や、未来につながる主体的な学びのため、今後も粘り強く続けていく必要がある。
<p data-bbox="277 1193 330 1220">備考</p>	

平成30年度 区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会
(広報部会)

区分	内容
<p>テーマ・事業名</p>	<p>コミュニティFMを活用した秋葉区自治協議会PR事業 【事業費予算 950 千円】</p>
<p>事業目的・概要</p>	<p>秋葉区ならではの取り組みとして、秋葉区のコミュニティFMを活用し、自治協の活動や自治協かわら版「あきはくはつものがたり」のPRを行う。</p>
<p>事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)</p>	<p>■FM版「あきはくはつものがたり」 【4月～6月】 毎月第2水曜日の11時15分から、10分番組の放送 【7月～3月】 毎月第2水曜日の12時20分から、30分番組の放送 (いずれも、再放送は同じ週の土曜日9時から) ■スポットCMの放送 20秒×5種類 ■かわら版「あきはくはつものがたり」を活用したPR【自治協運営事業】</p>
<p>事業の評価</p> <p>（地域課題の抽出方法や企画立案の 評価事業の公益性・実効性・効率性の 評価など）</p>	<p>■コミュニティFMを活用 ○秋葉区の強みであるコミュニティFMを活用した当事業は他区自治協の関心も高く、秋葉区の魅力と可能性を感じさせる有効な広報手段であった。 ○10分番組だったものを、昼休み時間に放送する30分番組と改正したところ、リスナー増が実感でき事業PRに大いに役立った。 ○自治協の各部会員に出演を依頼し各部の提案事業の紹介や実施報告を行ってもらったことは、身近な人の声ということもあり事業への区民の関心を高めることに繋がった。 ○コミュニティFMと「かわら版」とで、それぞれに番組や記事をPRしあったことで相乗効果があった。</p> <p>【課題】 ○提案事業に参加した区民や事業の中継音などを放送に乗せる事ができれば、番組構成も豊かなものになり、リスナーも一層増えるのではないかと。 ○エフエム新津の協力を得て聴取アンケートを実施するなど、番組改善やリスナー増のヒントを探ることも必要と考える。</p> <p>■かわら版「はつものがたり」の発行【自治協運営事業】 ○3号/年とはいえ区内全世帯へ配布されるかわら版は、自治協活動の実際を確実に広報できる媒体であり、区民からの反響も大きい。 ○情報の保存や見直しが容易であることから紙媒体での広報の価値は大きい。 ○区自治協の活動にかかわったタイムリーな記事が多く、自治協を区民に身近に受け止めてもらえ、「区民主動」の意識を醸成している。 ○広報部会員は総力を挙げて記事集めから編集まで取組んでいるが、各委員には原稿依頼を快く引き受けていただき、編集の上でも大いに助かった。 ○4コママンガ「チョGOくん」が好評で、老若男女、毎回楽しみにしてくれる人がいた。</p> <p>【課題】 ○協働の要として、本会議の様子や区の実情や課題に対する自治協としての考えなども掲載していくことが必要だと感じている。</p>
<p>備考</p>	<p>かわら版「あきはくはつものがたり」発行事業(事業費予算 940千円) 第19号:H30.7.15発行、第20号:H30.10.15発行、第21号:H31.3.15発行 各号29,000部発行し、全戸配布(自治会経由)のほか公共施設等に配置</p>